

## 「ふさわしい、とイエスは言った」

マタイによる福音書 3:13-17

ヨハネによる福音書 1:18

コロサイの信徒への手紙1:15

2024年2月4日  
野村 友美 師

### <ふさわしいことを>

先週、福岡教会の矢野正教先生の葬儀に参列してきました。月曜日の午前中からの葬儀でしたので、遠くから駆けつけるのはなかなか難しい時間でしたが、それでもたくさんの人が集まって来られました。ご家族と福岡教会の方たち、そしてナザレン教団の牧師たちや信徒さんたち、福岡市内の教派を超えた祈り会からも、矢野先生を見送りに来ておられました。

来られなかった方たちや、全国のナザレン教会からも、たくさんの弔電が告別式の直前まで届いていました。

信徒として奉仕しておられた別府教会での働きと、神学校での3年間の学び、昨年4月からの福岡教会での牧会、そして何よりも57年の人生の歩みを誠実に、一生懸命に走り通された矢野先生にふさわしい葬儀だったと思います。

残されたご家族と福岡教会の方たちが慰められますように、皆様どうかこれからもお祈りください。

年が明けて1ヶ月が過ぎましたが、本当に神様がなさることは計り知れない、と改めて痛感させられた1ヶ月でした。もっとこうなるべきなのに、何故ですか神様？と言いたくなるのが、私たちの人生にも、この世界にも、数え切れないほどあります。もちろん、全部を神様のせいにする

るわけにはいかないでしょう。

戦争も、理不尽な暴力も、痛ましい事件や事故も、私たち人間の罪が重なり合って起きてしまうものがほとんどです。

でも、と言うか、だからこそ私たちは、神様に「どうしてですか？」って訴えずにはいられないんじゃないでしょうか。

私たち自身ではどうにもならない、でも神様、あなただっただらもってこの世界を、私たちを、あなたにふさわしいものに変えられるでしょう？

どうしてそうなさらないんですか？と神様に詰め寄りたくもなります。

そんな私たちに、今日のイエス様の言葉と行動が、答えてくださっているように思います。

### <イエスの洗礼>

イエス様がお生まれになってから大体30年ぐらい経った頃。洗礼者ヨハネと呼ばれる人が、イスラエルを流れるヨルダン川のそばで、人々に洗礼を授けていました。

彼はエルサレム神殿の祭司ザカリヤの息子で、お母さんのエリサベトはイエス様を生んだマリアの親戚にあたる人でした。ヨハネの方がイエス様より半年ぐらい年上で、彼はやがて救い主がやって来るための準備をする人になる、と天使から予告されていました。

そんなヨハネのところに、ある日イエス様が洗礼を受けにやって来られたんです。当時のユダヤ教の洗礼は、外側から受けた汚れを水で洗い流して、神様の民にふさわしく清める、という意味で行われていました。

ですが洗礼者ヨハネはイスラエルの人たちに、自分たちの内側にある罪を自覚して悔い改めの洗礼を受けなさい、と呼びかけていました。

神様の思いを無視する生き方から、神様の思いに従う生き方へと向き直るように。

神様のやり方に信頼して、これからやって来る救いを素直に受け取れるように。

人々が救い主を迎える準備をするために、ヨハネは洗礼を授けていたんです。

この時代のイスラエルは、バビロニア、ペルシア、マケドニア、そしてローマ帝国と、強い力を持った国に侵略されて、支配され続けてきていました。理不尽に抑え込まれて、重い税金を課せられて、民族の誇りを踏みにじられている。

そういう状況からイスラエルを救い出してくれる新しい王様、メシアの登場を人々はずっと待ち望んでいました。

自分こそメシアだ、と名乗る人が何人も現れては、革命を起こそうとして結局は失敗していました。一刻も早く本当のメシアが来てくれるように。

今度こそ神様が私たちに救ってくださるように。そう願って、たくさんの人がヨハネの洗礼に、救いの期待を賭けていたんです。

そんな人々に混じって、イエス様も同じように洗礼を受けるためにヨハネのところに来られました。驚いたのはヨハネです。

だって、まさに自分が予告していた救い主本人が、受ける必要もないはずの悔い改めの洗礼を受けようとしているんですから。

私こそ、あなたから聖霊と火で洗礼を受けるべきなのに。

どうしてあなたが、わざわざ私から洗礼を受けようとするんですか？

「そんなの救い主にふさわしくないですよ！」と言わんばかりに、ヨハネは必死でイエス様を止めようとしていました。

でもイエス様は引き下がりません。

「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」

そう言って、イエス様はヨハネを説き伏せました。今、私があなたから洗礼を受けるのは「正しいこと」、私たちにふさわしいことなんだ、とイエス様はヨハネに伝えておられます。

ここでイエス様が使っておられる「正しいこと」という元の言葉は、ただ常識的に正しいか間違っているかという意味の言葉じゃありません。神様の目から見て正しいこと、神様の思いに合っていることを指す言葉を使って、イエス様は「これは正しいことだ」とヨハネに言っておられるんです。

今は、これがどういうことなのかわからなくても。今は、誰の目にも「ふさわしい」ことには見えなくても。

ただ神様の思いに従って、神様がここからなさることに期待するのが私たちに「ふさわしい」ことなんだ、とイエス様は言われました。

このイエス様の言葉に応じて、ヨハネはイエス様に洗礼を授けたんです。

そして、この二人の行動に応えるようにして、不思議なことが始まります。

天が開けて、聖霊が鳩のように、イエス様の上に降って来ました。

「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が開けた天から聞こえてきました。天が開ける。それは神様がおられる場所と、私たち人間が生きている場所が繋がったというしるしです。

目に見える姿で、神様の霊はイエス様がおられる場所に、人間たちの間に降ってこられました。見ることができる形で、神様はイエス様と一緒に

におられることをお示しになったんです。  
救いを求めて洗礼を受ける人たちと一緒にいる  
イエス様を、神様は「わたしの愛する子、わたし  
の心に適う者だ」とおっしゃいました。  
聞くことができる声で、神様は人々の真ただ  
中にあるイエス様を指して「これがわたしのや  
り方、わたしの心に適うことだ」と宣言なさった  
のです。

<ふさわしい、とイエスは言う>

この出来事を、ヨハネや他の人たちも見て、聞いて  
いたのか？だとしたら、どんな風に受け止めた  
のか？周りの人たちの反応については、ここ  
では何も語られていません。

何が起きていたのか、誰も気がつかなかったの  
かもしれません。それでも神様は確かに、イエス  
様の洗礼が「ふさわしいこと」なんだと、見えて  
聞こえてははっきりわかる形で宣言されました。  
救いを求める人々と同じ場所に立たれたイエス  
様のことを、神様は「わたしの愛する子、わたし  
の心に適う者」と呼ばれました。

イエス様という存在を通して、神様が私たち人  
間と同じ場所に来られた。

イエス様を通して、神様の思いとやり方が私た  
ちに示された。その事実だけを、今日の聖書の言  
葉は伝えているのです。

どう受け止めるのか、どう反応するのかは、この  
出来事を受け取った一人一人に向かって問いか  
けられていることなのでしょう。

神様の姿は、私たちには見えません。

神様の声は、私たちには聞こえません。

でも聖書が伝えるイエス様の姿、イエス様の言  
葉と行動は、私たちの目に見える神様の姿、私た  
ちの耳に聞こえる神様の声です。

ヨハネによる福音書は、最初にイエス様のこと  
を紹介してこう語っています。

「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふと  
ろにいる独り子である神、この方が神を示された  
のである。」(ヨハネ1:18)

そして使徒パウロもまた、コロサイの教会に宛  
てた手紙の中でイエス様こそ「目に見える神様  
の姿」だと証言しています。

「御子は、見えない神の姿であり、すべてのもの  
が造られる前に生まれた方です」

(コロサイ1:15)

この証言を心に留めて、改めてイエス様の姿  
に目を向けるとき、私たちの常識も価値観もは  
るかに超える、神様の愛を見て聞くことができ  
ます。

自分の中のどうにもならない罪を認めて、ただ  
神様に救いを求める人たちの真ただ中に来て、  
同じ場所に立ってくださる神様。

病気や悪霊に苦しむ人たちを癒して、社会の  
端っこに追いやられている弱い立場の人々と一  
緒に食卓を囲む神様。一人一人を愛し抜いて、す  
べての人を救って生かすために、ご自分が犠牲  
になって苦しまれた神様。

十字架に打ち付けられて、私たちの罪が生み出  
す痛みも悲しみも、屈辱も孤独も、死の恐怖さえ  
も味わわれた神様。

それがこの世界をお造りになって、私たちに命  
を与えておられる神様の姿です。

遠く離れた高いところから、私たちがいる場所  
を見下ろしておられるんじゃないありません。

聖書が伝える神様は、ご自分の独り子をこの世界に遣わして、天を開いて、私たちの場所まで降ってこられた御方です。

イエス様が十字架で死なれてよみがえられて、天に昇られたその後も、神様は聖霊を通して、今この時も私たちと同じ場所にいてくださいます。変わらない日々の生活の中でも、変わりゆく状況の中でも。喜ぶときも悲しむときも、悩むときも痛むときも。

「誰にもわかってもらえない」と孤独に泣いているときだって。神様に助けを求めて祈る者たちの真ただ中に、いつだって神様はおられるんです。

命を与えて愛している一人一人に、この世界に、ふさわしい恵みと喜びをもたらそうとして、神様は日々働いておられるんです。

驚くばかりのこの愛を、私たちが見失うことがありませんように。

イエス様という目に見える姿で、耳に聞こえる声で、すべての人への愛を示してくださった神様がおられることを、見失わないでいられますように。

どんな時でも、神様が実現しようとしておられる「ふさわしい」ことを期待して祈りながら、私たちはこの計り知れない人生の旅路を歩いてまいりましょう。

イエス様の姿を道しるべにして。

お祈りいたします。